

単元名	My Favorite Event This Year (東京書籍)				本時1 / 2時間
本時のねらい			育成を目指すプログラミング的思考		
思い出に残った学校行事について、情報を整理したり感想を考えたりしながら原稿を作成できる。 (思・判・表)			 組合せ	目的に応じて、適切な要素の組合せを作る。 [Stage3]	
本時のねらいとプログラミング的思考との関連性					
本時の学習では、プログラミング的思考の中の組合せと評価・改善の思考を取り入れ、聞き手に伝わる発表にするために、話題、いつどこで何をしたか、感想、の3つの情報の組合せを作る活動に取り組む。情報を組み合わせたり整理したりして発表原稿や発表スライドを作り、ペアで評価し合って改善する活動を通して、本時のねらいを効果的に達成できる。					
学習ツール	Viscuit	Scratch	スライド	スプレッドシート	無

プログラミング的思考に関する活動の流れ (展開を想定)		●教師の発問・指示 ◇指導上の留意点 ※学習ツールを使用する際の留意点
導入	1 本時の課題を確認する。 聞き手に伝わる発表になるように、必要な情報を整理して、発表原稿と発表スライドを作ろう。	
	2 聞き手に伝わる発表の特徴をつかむ。	◇[授業スライド p. 1～p. 7] ●「聞き手に伝わる発表とは、どのような特徴がありますか？ペアで考えてみましょう。」 ※具体例が出ない場合は、[授業スライド p. 2～p. 7]を使用する。例文の中からキーワードだけを抜き出させ、どのような情報が含まれているか気付かせる。 ◇発表態度については次回の授業で扱い、本時は発表の内容について焦点を当てることを、クラスに伝える。 ●「話題、いつどこで何をしたか、感想など、必要な情報が整理されていましたね。」
展開	3 必要な情報を組み合わせたり、整理したりして、発表原稿と発表スライドを作成する。	◇[授業スライド p. 8～p. 13] ●「話したい話題(テーマ)を決めて、話題、いつどこで何をしたか、感想など、必要な情報を組み合わせたり、整理したりして、発表原稿を作成しましょう。」
	4 ペアになり、互いの原稿や発表スライドの良い点や改善点、感想を伝え合う。	◇[評価シート] ●「より相手に伝わる発表原稿や発表スライドになるように、互いにアドバイスを出し合しましょう。」 ◇互いに感想を伝える際は、[評価シート]の項目を参考にさせる。 ◇作成が途中の生徒も、活動に参加するように促す。
終末	5 アドバイスを参考に、発表原稿と発表スライドを改善する。	◇次回の発表活動までに、発表原稿と発表スライドの作成を終わらせるように促す。

評価シート

Class: No: Name:

他者評価

下の各項目について、A～Cを入力してください(A:よくできた B:できた C:もう少し)。

	発表に関すること			原稿に関すること	改善につながるコメント
	聞き手に目線を合わせて発表できた	聞き手に伝わる声の大きさ、話す速さで発表できた	発表スライドを効果的に作成できた	聞き手に伝わるよう、必要な情報を整理できた	
Date / ()					

自己評価

下の各項目について、A～Cを入力してください。

	発表に関すること			原稿に関すること	良かった点、改善点、気付いたことなど
	聞き手に目線を合わせて発表できた	聞き手に伝わる声の大きさ、話す速さで発表できた	発表スライドを効果的に作成できた	聞き手に伝わるよう、必要な情報を整理できた	
Date / ()					